

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名 こぱんはうすくら 川口戸塚教室

保護者等数(児童数) 32(34) 回収数 31 割合 97%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	9	0	2	・狭くはないが、広くもない。 ・思ったより広い。安全対策もしてもらっている。	活動スペースを確保するために、テーブルの配置変更やロッカーを増設、使用頻度の少ないものを別の場所に移し管理しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	22	4	1	3	・人数は適切だと思うが、児童数が増えてきているので足りなくなると思う。 ・新しい先生の情報は何かしらの手段で早め	できるだけ児童2人に対して職員1人の割合となるようにシフトを組んでいます。 臨床心理士や理学療法士、言語聴覚士など専
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	13	8	0	10		今後、自立困難な児童の受け入れ態勢が整いましたら、手すりやスロープなどを設置していきたいと考えています。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	29	0	0	0	・満足している。	
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	30	1	0	0	・親よりいろいろな体験をさせてもらっている。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	7	7	11	・年間数回でいいので参観できる機会があるとよい。 ・学校に行っているのだから必要ない。 ・買い物、行事ごと積極的に連れ出し、これ	
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	29	2	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	28	2	0	0	・毎回とてもよく見てもらっている。その日のうちに様子を伝えてもらい、ありがたい。 ・良かったことだけでなく問題行動もその日のうちに伝えてほしい。	送迎時に学校やご家庭、教室での様子を伝え合うことでお互いに共通理解を図っています。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	25	5	0	0	・細かい相談や助言は少ないと思う。 ・つねに減点方式の支援員がいる。もっとプラスに考えてほしい。 ・できないこと、できたことを細かく伝えてくれて	必要に応じて保護者や児童と職員が面談する機会を設定し、それぞれの希望や心配事などを聞き、支援目標や支援方法の変更が必要か職員間で話し合っています。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5	7	9	10	・交流の場があると情報交換できるので助かる。 ・個々の保護者の考えも様々なので無理に連携を取らなくてもよいと思う。	音楽や劇の発表会など、子どもたちと一緒に保護者が参加できるイベントを企画していきます。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18	6	0	7	・今のところ何も文句をつけるところがない。あったとしても対応してくれると信頼している。	子どもや保護者が納得できる形で教室内のルールを決めたり見直しを進めています。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	25	5	0	1	・連絡が遅くなっても丁寧かつ迅速に返信してくれ助かっている。 ・忘れっぽい私を助けてくれるかのように連絡を入れてくれるので、子どもにきちんと持ち物	・しっかり早い段階でいただいている。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	29	2	0	0		
14 個人情報に十分注意しているか	28	1	2	2	・他のお子様のことが漏れ聞こえてこないのが安心している。		
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	24	4	2	1		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	25	4	0	2	・子ども自身がきちんと理解できるよう指導してくれているので、訓練を続けているうちにいろいろ理解が深まっている。	
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	25	6	0	0	・学びが多く大変だと感じているようで、楽しみにはしていないと思う。 ・毎回とても楽しみにしている。笑顔が増えた。	子どもたちの笑顔を引き出し楽しく学び成長していけるように、子どもたち一人ひとりに寄り添い支援していきます。
	18 事業所の支援に満足しているか	26	5	0	0	・通所できていることに本当に感謝している。 ・現金ではなく引き落としでの集金にしてほしい。	児童や保護者の声に耳を傾けながら、子供たちが成長していく助けとなるように努めています。

407 78 19 49

74%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名 こばんはうすくら 川口戸塚教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	5	テーブルをすべて壁側に置いて教室中央を広く開け、集団活動ができるようにしている。	テーブルの配置変更やロッカーの増設をし、使用頻度の少ないものを別の場所に押し、活動スペースを確保します。
	2 職員の配置数は適切である	4	3	できるだけ児童2人に対して指導員1人の割合となるようにシフトを組んでいる。	適切な人材確保に向け、引き続き職員の募集・面談を進めていきます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	4		
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	パート職員も含め、全職員が参加する打ち合わせを週1回、定期的に行っている。	毎回、協議内容を議事録として残り、いつでも確認し全職員が共通認識のもと支援できるようにしていきます。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2		保護者の要望を職員間で共有するとともに改善に向けて話し合い、決定したことを実践していきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2	保護者向けアンケートや自己評価の結果を、事業所のホームページ上に公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	虐待防止や身体拘束3要件、AEDの使用方法などの全体研修を実施したほか、アレルギー研修など個別研修を提案している。	研修に参加し学んだことを資料としてまとめ、他の職員にも共有していきます。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	複数の児童について記入用紙を用意し、気になる行動があればその前後の状況を記載し、適切な対応の仕方を検討している。	気になる行動について必ず記録するよう職員に周知し、「行動・特性観察記録シート」の活用徹底を図ります。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2	日別に担当者を割り当てているが、自由に相談し合いながらプログラム内容を日々検討している。季節のイベントについては職員打ち合わせを繰り返し、様々な活動を盛り込むようにしている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	活動内容別に色分けしたプログラム予定表を配布している。七夕祭りやハロウィン、餅つきなど季節に合わせたイベントを組み入れている。	利用児童の特性や支援目標に合ったプログラム活動となるように工夫します。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2	休日には買い物やクッキング、公園遊びや公共施設訪問など、平日とは違う活動を実施している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	指先トレーニングやひらがな遊び、お金の計算など各児童の発達段階に合わせて個別課題を設定し、指導員を付けて取り組んでいる。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	毎日事前打ち合わせをおこない、予想される児童の動きやその対応の仕方について意見を出し合い共有している。特に支援が必要な児童には担当者を個別に設定し療育に臨んでいる。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4	その日の活動を振り返り、対応の仕方に関係はなかったかについて意見を出し合い、必要に応じて見直している。	送迎にかかる時間を短縮できるよう送迎の割り振りを見直したり、翌日の午前などの時間を有効活用して必ず振り返りを行っていきます。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	連絡帳や療育記録用紙にその日できたことやできなかったこと、気になったことなどを毎日記録している。	送迎時に児童の活動の様子をより具体的にお伝えできるように、できるだけ送迎添乗員と記録者が同じになるよう振り分けに配慮します。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	療育記録の記載内容を定期的にまとめ、必要に応じて児童の課題を見直している。	児童の日々の活動状況を確認し、支援計画の見直しが必要かを適宜判断し対応していきます。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	0			
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1			
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	1	送迎時に学校での様子や当日の活動内容を尋ね、その情報を職員間で共有している。送迎時間に遅れる際には早めに連絡を入れ、児童にも知らせるよう伝えている。		

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2	児童発達支援クラスからの持ち上がり児童について、日頃から情報を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	5		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5		地域の児童会が開催するイベントなどへの参加を検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	頑張っていることや気になることなど児童の様子について家庭と情報交換し、共通理解を図っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	4		専門知識を身に着けた職員を増やしていけるよう、ペアレント・トレーニング研修の受講を検討していきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	契約時や個別支援計画更新時に説明しているほか、LINE等で受けた問い合わせに対しても改めて説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	今後のクラス変更や進路先の学校選びについての相談を受け、日頃の様子や児童の特性を踏まえたアドバイスを行った。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		保護者同士の座談会などの開催を検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	要望のあった件について職員間で協議し、決定した内容を児童と保護者に伝えるとともに、教室でも数日にわたって全児童にその内容を伝えた。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	毎月お便りを発行し、日々の活動の様子や教室の取り組みについて保護者に伝えている。	
	35	個人情報に十分注意している	5	2	個別ファイルや実績表などの個人情報を書庫にまとめ、施錠・管理している。	個人情報に記載された書類を扱ったり、児童や家族についてなど個人的な内容について会話する時には、十分周囲に注意を払って行います。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	2	できるだけ分かりやすい言葉を用いたり、短い言葉で指示を出すよう心掛けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	地域イベントへ参加する形で関わりを持つことができている。	田植えや稲刈り、芋掘りなどの農作業体験などができないか、地域へ働きかけをしていきます。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	2		
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2	映像学習やクイズ形式で考える機会を随時つくり、防災意識を高められるように配慮している。また、実際に避難場所までルールを守りながら移動するなど、避難訓練を実施している	年間2回以上の避難訓練を実施します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2		支援をする中で虐待にあたる行為をしていないか常に意識しながら児童支援に関わっていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2	契約時に保護者に説明しているほか、個別支援計画にも身体拘束の3要件について記載し、保護者の了承を得ている。	身体拘束を行った時には必ず保護者に連絡し、情報を共有するとともに、必要に応じて保護者に送迎を要請するなど児童の心のケアに配慮し対応します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	4	アレルギーがない事前に保護者に確認し、アレルギー反応を起こす恐れがないものを選び提供している。	医師の指示書の有無について保護者に確認し、子どもの安全に細心の注意を払いながら適切に対処していきます。また、アレルギーの有無についても定期的に確認していきます。危険な状況を未然に防げるよう細心の注意を払いながら児童の活動を見守っていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	3		